

會報

平成13年9月15日 発行

第 47 号

関東地区整形外科勤務医会

発行者：会長 関 寛 之

発行所：事務局 代表 立花 新太郎

〒105-8470 東京都港区虎ノ門2-2-2

虎の門病院整形外科内

関東地区整形外科勤務医会

☎ (03) 3588-1111

FAX (03) 3582-7068

巻頭言

会長に就任して

国立身体障害者リハビリテーションセンター病院 関 寛 之

村瀬前会長の後任として第6代会長にご推挙を受け、身の程もわきまえず大役をお引き受けいたしました。21世紀を迎え、勤務医会も大きく転換しつつあると認識しております。関東地区勤務医会は昭和59年に発足いたしました。はじめの10年は組織作りで、関東地区が発足した5年後に日本整形外科勤務医会が設立され、内部的な体制整備が着々と進められました。これからは対外的な活動や発信をしていく段階に入りました。

その第1は平成16年から始まる2年間のスーパーローテート研修の必須化に伴う卒後研修システムの再構築です。すでに教育研修委員会が様々な調査活動をしてきましたが、卒後研修の問題は勤務医会がイニシアティブをしめさなければいけない問題です。会報第46号の巻頭言で立花先生が提案している勤務医の連携による卒後研修システムを構築したいと考えております。

第2は医療保険制度の問題です。日本整形外科勤務医会前事務局の石名田先生のご尽力で昨年勤務医会は外科系学会社会保険委員会連合（外保連）に加盟しました。整形外科診療報酬の新設や改訂は外保連が医師会や厚生労働省に具申して検討の場にとりあげられます。外保連に加盟すると我々の要望が直接外保連をとおして厚生労働省に届くのです。従って我々が意見をまとめなければ加盟は何の意味もありません。昨年はオブザーバーで直接要望を提出できませんでしたが今年からは勤務医会として要望を出すことができます。教育研修委員会と社社保険委員会の活動は勤務医会にとって大変重要な活動です。

主要目次

1. 巻頭言 会長に就任して 関 寛 之 1
2. 平成13年度関東地区整形外科勤務医会総会 2
3. 平成12年度事業報告・平成13年度事業計画 3
4. 関東地区整形外科勤務医会役員 4
5. 第32回日整会認定教育研修会 6
6. 会員の異動 8
7. お知らせ 10
8. 入会のご案内 11
9. 事務局日誌・編集後記 11

両委員会とも実務的には関東地区が担って行かなくてはなりませんのでご協力をお願いいたします。

勤務医会の役員、日整会代議員、日整会役員が大幅に改選されました。勤務医会はこれまでも日整会代議員会や理事会で多くの decision making な発言や活動を行っており、日整会の運営に重要な役割を果たしてきております。しかし代議員の選挙となると組織力が弱くて戦えません。この弱点がさらけでないように、大井前日本勤務医会会長、村瀬前関東地区会長にご奔走いただき、昨年度は選挙戦が避けられました。

選挙戦がないといっても無原則に代議員が決まっているわけではありません。関東地区では代議員の候補者には日本勤務医会役員会と関東地区勤務医会役員会で選出された役職者をたてるという原則があります。大学、臨床整形外科医会も同様な手順で候補者選びをしているので、日整会々員全員の投票が行われないにしても、ひと頃噂された票の貸し借りの選挙戦よりよほど公正であります。

関東地区勤務医会の役員、代議員とも世代交代で一回り若い世代が中核になりました。引き継いだ遺産をさらに価値あるものにしていくには組織の拡充は不可欠です。勤務医会入会を勧誘すると、入ると何かメリットはあるのかと時々聞かれますが、その答えには私は大学生のときに聞いたケネディ大統領の就任演説を引用させていただきます。「アメリカ人諸君よ。国が諸君のために何をしてくれるかなどとはいわず、諸君がアメリカのために何ができるのかを問うて欲しい。 Together, let us begin.」

平成13年度関東地区整形外科勤務医会総会

平成13年6月9日（土）住友化学参宮寮の会議室にて開催された。議長に亀ヶ谷真琴先生（千葉）、副議長には山下武広先生（千葉）が選出された。出席者は26名で委任状140名を含めると166名の出席となり、会則により総会成立の定足数である会員総数468名の10分の1をうわまり、議長より総会の成立が宣せられた。

議事に入り、事務局から平成12年度の事業報告および決算報告、監査報告がされて承認された。ちなみに会員総数470名、会費納入率は63%であった。ついで平成13年度の事業計画および予算についても承認された。今年度より会報発送費を負担することとなり通信費が大幅増となっている。これに対する対策として会報の広告収入をあてることにした。なお平成13年度、14年度の役員選出についても承認された。（別表参照）

さらに会則の変更（①副会長を1名より2名に増員、②会計年度を4月1日より翌年3月31日までとする、③事務局の交代）についても承認された。（別掲）

平成12年度事業報告

(平成12年3月1日～平成13年2月28日)

会報発行	3回(3月15日、7月20日、 11月20日)
名簿発行	(12月)
総会	(6月10日)
幹事会	2回(6月10日、12月2日)
常任幹事会	5回(3月3日、4月24日、 5月26日、10月17日、 1月26日)
教育研修会	2回(6月10日、12月2日)

平成13年度事業計画

(平成13年3月1日～平成14年3月31日)

会報発行	3回(3月、7月、11月)
名簿発行	(12月)
総会	(6月9日)
幹事会	2回(6月9日、12月8日)
常任幹事会	4回(5月、9月、11月、 3日)
教育研修会	2回(6月9日、12月8日)

平成12年予算

(平成12年3月1日～平成13年2月28日)

【収入】

	予 算	決 算
前期より繰越	1,077,246	1,077,246
会費収入	1,300,000	1,188,000
利子	1,000	687
研修会会費	350,000	270,000
広告費	150,000	150,000
幹事会費	300,000	332,410
総計	3,178,246	3,018,343

平成13年度予算

(平成13年3月1日～平成14年3月31日)

【収入】

	予 算
前期より繰越	1,114,241
会費収入	1,300,000
利子	1,000
研修会会費	300,000
広告費	150,000
幹事会費	3,165,241
総計	

【支出】

幹事会費	300,000	332,410
総会・研修会費	200,000	264,135
講師謝礼	300,000	250,000
会報	200,000	196,140
会員名簿	50,000	0
日本整形外科勤務医会費	650,000	596,510
通信費	25,000	61,016
事務人件費	120,000	120,000
雑費	100,000	83,891
小計	1,945,000	1,904,102
次期繰越	1,183,246	1,114,211
総計	3,178,246	3,018,343

【支出】

幹事会費	300,000
総会・研修会費	200,000
講師謝礼	300,000
会報	200,000
会員名簿	50,000
日本整形外科勤務医会費	650,000
通信費	50,000
事務人件費	120,000
雑費	100,000
小計	1,970,000
次期繰越	1,195,241
総計	3,165,241

関東地区整形外科勤務医会役員

氏名	役員名	勤務先	都県名		
関 寛 之	幹事、常任、会長	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院	埼玉県	東北大	S42
秋 山 典 彦	幹事、常任、副会長	茅ヶ崎市立病院	神奈川県	横浜市大	S45
亀ヶ谷 真 琴	幹事、常任、副会長	千葉県こども病院	千葉県	日医大	S52
河 端 正 也	幹事、常任、監事	東京共済病院	東京都	東大	S32
山 浦 伊 織 吉	幹事、常任、監事	九段坂病院	東京都	医歯大	S36
立 花 新 太 郎	幹事、常任、事務局	虎の門病院	東京都	東大	S48
石 突 正 文	幹事、常任	土浦協同病院	茨城県	臨歯大	S46
伊地知 正 光	幹事、常任	東京労災病院	東京都	東大	S40
江 畑 功	幹事、常任	横須賀共済病院	神奈川県	横浜市大	S57
大 井 利 夫	幹事、常任	上都賀総合病院	栃木県	千葉大	S35
上小鶴 正 弘	幹事、常任	埼玉県総合リハビリテーションセンター	埼玉県	医歯大	S46
佐々木 孝	幹事、常任	済生会神奈川県病院	神奈川県	慶大	S48
柴 崎 啓 一	幹事、常任	部立療養所村山病院	東京都	慶大	S40
下 出 真 法	幹事、常任	NTT東日本関東病院	東京都	東大	S48
白 石 建	幹事、常任	国立栃木病院	栃木県	慶大	S52
原 田 繁	幹事、常任	筑波学園病院	茨城県	筑波大	S55
別 府 保 男	幹事、常任	国立がんセンター中央病院	東京都	長崎大	S48
星 川 吉 光	幹事、常任	聖路加国際病院	東京都	東大	S48
細 谷 俊 彦	幹事、常任	総合大田病院	群馬県	東医大	S40
三 笠 元 彦	幹事、常任	清瀬病院	東京都	慶大	S40
村 瀬 鎮 雄	幹事、常任	神奈川リハビリテーション病院	神奈川県	慈恵医大	S36
山 下 武 広	幹事、常任	千葉市立病院	千葉県	千葉大	S39
浅 井 亨	幹事	川口市立医療センター	埼玉県	日大	S43
浅 賀 嘉 之	幹事	秩父市立病院	埼玉県	順大	S46
有 馬 亨	幹事	国立療養所箱根病院	神奈川県	慶大	S38
泉 田 良 一	幹事	埼玉社会保険病院	埼玉県	慶大	S50
市 原 真 仁	幹事	日野市立総合病院	東京都	慶大	S45
浦 部 忠 久	幹事	足利赤十字病院	栃木県	群馬大	S54
大 成 克 弘	幹事	横浜南共済病院	神奈川県	横浜市大	S51
冲 永 修 二	幹事	東京通信病院	東京都	東大	S53
勝 又 壮 一	幹事	神奈川リハビリテーション病院	神奈川県	慈恵医大	S44
神 平 雅 司	幹事	市立甲府病院	山梨県	信州大	S57
加 村 壮 一 郎	幹事	東京共済病院	東京都	東京大	S52

氏名	役員名	勤務先	都県名		
鴨川盛秀	幹事	J R東京総合病院	東京都	東京大	S49
川口智義	幹事	癌研究会附属病院	東京都	熊本大	S42
川田英樹	幹事	神奈川県衛生看護専門学校付属病院	神奈川県	慈恵医大	S45
木村雅史	幹事	善衆会病院群馬スポーツ医学研究所	群馬県	福島県立医	S46
黒木啓文	幹事	国立国際医療センター	東京都	東京大	S52
小林健一	幹事	鹿島労災病院	茨城県	千葉大	S48
近藤泰児	幹事	都立駒込病院	東京都	東大	S54
佐藤茂	幹事	武蔵野赤十字病院	東京都	東大	S48
佐藤雅人	幹事	埼玉県立小児医療センター	埼玉県	日本大	S47
塩島和弘	幹事	深谷赤十字病院	埼玉県	群馬大	S54
鈴木信正	幹事	済生会中央病院	東京都	慶大	S44
田崎憲一	幹事	荻窪病院	東京都	慶大	S50
田中正	幹事	君津中央病院	千葉県	千葉大	S49
土屋正光	幹事	同愛記念病院	東京都	医歯大	S43
永瀬譲史	幹事	国立千葉病院	千葉県	千葉大	S50
長谷川惇	幹事	社会保険群馬中央総合病院	群馬県	福島医大	S47
広瀬一郎	幹事	国立水戸病院	茨城県	東北大	S57
藤田享介	幹事	浦和市立病院	埼玉県	慶大	S49
藤塚光慶	幹事	松戸市立病院	千葉県	千葉大	S43
藤原三郎	幹事	山梨県立中央病院	山梨県	順大	S50
堀内静夫	幹事	川崎協同病院	神奈川県	横浜市大	S47
堀内行雄	幹事	川崎市立川崎病院	神奈川県	慶大	S48
安竹重幸	幹事	平塚共済病院	神奈川県	横浜市大	S49
山本三希雄	幹事	国立療養所神奈川病院	神奈川県	東邦大	S38
横井正博	幹事	済生会若草病院	神奈川県	慶大	S35

名誉会員

東晃	名誉会員	日岩会下井整形外科	東京都	東大	S29
大谷清	名誉会員		東京都	慶大	S33
大森薫雄	名誉会員	神奈川県横須賀老人ホーム診療所	神奈川県	慈恵医大	S35
蓮江光男	名誉会員	帝都高速度交通営団保健医療センター	東京都	東大	S30
森健躬	名誉会員		神奈川県	名古屋大	S28
山崎典郎	名誉会員	田道高齢者在宅サービスセンター機能訓練	東京都	東大	S29
山田勝久	名誉会員	横浜南共済病院	神奈川県	横浜市大	S31

第32回 日整会認定教育研修会

平成13年6月9日(土)住友化学参宮寮で総会に引き続いて開催された。講演は会員の下出真法先生(NTT東日本関東病院)の「腰椎すべり症に対する後方進入腰椎椎体間固定術(PLIF)のコツ」、東京大学中村耕三教授の「慢性関節リウマチにおける骨、関節破壊のメカニズム」の2題であった。

(事務局)

腰椎すべり症に対する 後方進入腰椎椎体間固定術(PLIF)のコツ

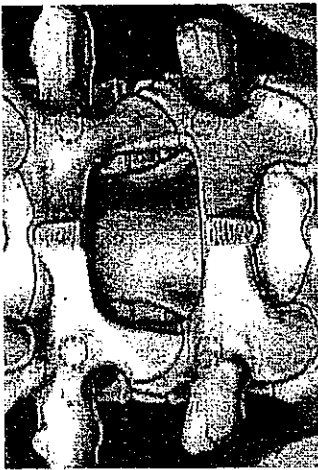
NTT関東病院整形外科 下出真法

PLIFは約50年前にClowardが先駆的に初めた手術で、以後一部の愛好家のあいだで行われていましたが、広く一般的な手術法として普及はしませんでした。1980年代以降にpedicle screwが腰椎変性疾患に使用されるようになり、PLIFの力学的優位性が再認識され、この10年間に広く普及するようになりました。しかし、PLIFは優れた手術法である反面大きな欠点があります。手術手技が煩雑で術者により手術成績が一定しない、手術侵襲が大きい、合併症が多い、多くの移植骨を必要とする、自家骨移植では移植骨の圧潰が多発する、というような欠点があります。私どもはこのようなPLIFの術式上の欠点を最小限にするために、①椎体間に良好な母床を画一的に作製する、②作製した母床に密着する椎間スペーサーを挿入する、③椎間スペーサーの素材は椎体骨組織と直接結合するものを使用し移植骨自体の骨癒合を待たずに早期の椎体間固定を完成させる、ということコンセプトに、1991年より独自の手術法を考案改良してきました。本日はその手術手技の実際をご紹介します。

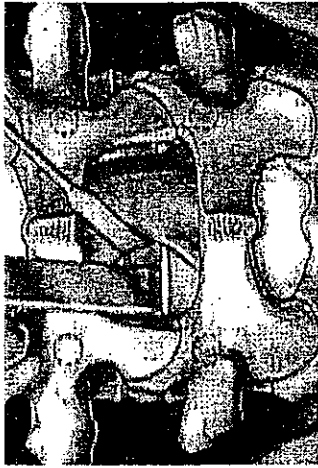
手術法をご紹介します。現在使用しているPLIF用器具は椎間ガイドロッドと母床作製の円筒型ノミおよびタップ切りです。そして、それに合致する3サイズのAWGC製(2001年からは緻密セラタイト製)ネジ型椎間スペーサーを使用しています。手術法は、①椎間関節の切除を加えた神経組織の除圧後、②椎間ガイドロッドにて椎間を開大整復し、③pedicle screw-plateにて固定し、④円筒型ノミをロッドに沿って椎体間に打ち込みPLIFの母床を作製し、⑤その母床にタップを切ったあと椎間スペーサーをねじ込み椎体間固定を行うというものです(図)。なお、術後療法は、術後1週にて軟性コルセット着用下に立位歩行を開始し、3ヶ月以後は一切の制限はなく重労働やスポーツも許可していません。

現在行っている術式は1994年に確立したのですが、それ以後にこの手術を行った腰椎すべり症で、2年以上の経過観察期間をもつ65例の手術結果は、3例に開大した椎間高の減少がございましたが、偽関節例はなく、術後2年でのJOAスコアでの改善率は平均83.3%でした。手術時間は平均3時間11分、術中出血量は平均679mlでした。重篤な全身全併症や神経合併症はありませんでした。

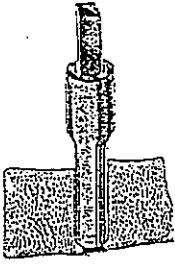
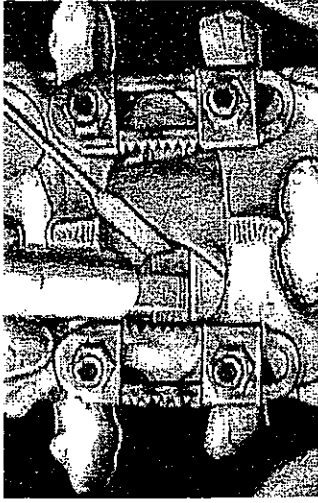
ぜひお試しください。ご検討いただきたく手術法と考えております。



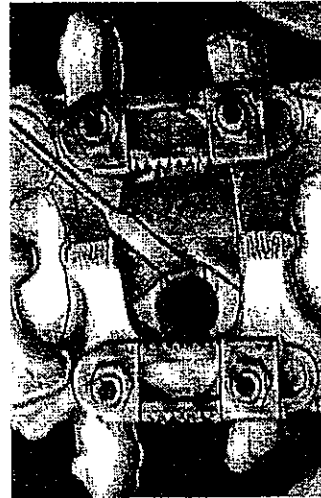
a. 神経組織の十分な除圧。



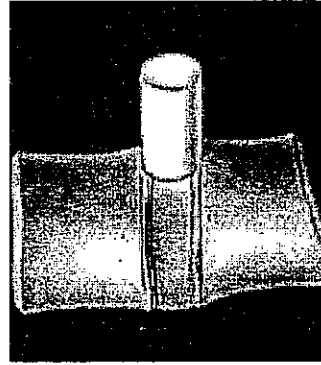
b. 整復用ロッドを椎間に挿入し90°回転させる。



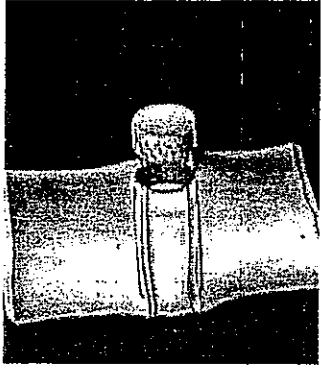
c. 整復位で固定後、ロッドをガイドとし円筒型ノミを打ち込み上下の椎体を均等に削る。



d. できあがった円柱型の母床。



e. 円柱型人工骨を打ち込む。



f. 円板状の自家骨にて蓋をする。

われわれの行っている PLIF の術式

慢性関節リウマチにおける骨・関節破壊のメカニズム

東京大学医学部整形外科教授 中村 耕三

近年のRA治療薬の進歩により、炎症・疼痛に関しては良好なコントロールが得られる症例が増加している。しかし重症例の場合、関節置換術等の整形外科的手術が広く行われ、RA治療における課題の一つは、骨破壊による関節機能障害の制御である。

RA関節滑膜では、滑膜細胞が異常増殖し骨軟骨破壊を進行させる。増殖した滑膜（パンヌス）が、骨内へと侵入していく最前線には多数の酒石酸抵抗性酸フォスファターゼ（TRAP）染色陽性の多核巨細胞が観察される。したがって、破骨細胞の制御による骨関節破壊の抑制の可能性が注目される。

破骨細胞は、マクロファージ・単球系前駆細胞がマクロファージコロニー刺激因子（M-CSF）存在下で、骨芽細胞・ストローマ細胞等の形成支持細胞との接触刺激を受けて形成されるが、RA滑膜では、滑膜マクロファージが滑膜線維芽細胞の支持のもとで破骨細胞に分化する。RA滑膜組織は、破骨細胞の前駆細胞（滑膜マクロファージ）、形成支持細胞（滑膜線維芽細胞）、誘導因子・活性化因子（IL-1, IL-6, TNF）がすべて共存しているために、非常に効率よく破骨細胞を形成する組織であると考えられる。

1998年、骨芽細胞・ストローマ細胞等の破骨細胞形成支持細胞に発現する破骨細胞分化誘導分子ODF/OPGL/RANKL（Osteoclast differentiation factor/Osteoprotegerin ligand/receptor activator of NF- κ B ligand）が同定され、破骨細胞分化の必須因子として、またOPGがその抑制因子として確認された。RA滑膜組織でもRANKLが多量に発現しており、RAでの破骨細胞分化誘導も、RANKLを介していることが明らかになった。そこで、アジュバント関節炎ラットにOPGを罹患関節に直接投与したところ、骨破壊を抑制できることを示唆するデータを得た。

非受容体型チロシンキナーゼc-Srcは、ロックアウトマウスが大理石骨病を呈することから破骨細胞の機能に必須であることが知られている。そこで、アジュバント関節炎ラットに対して、アデノウイルスベクターを用いて、破骨細胞に対してSrcの活性を負に調節するチロシンキナーゼCskの遺伝子の導入を行った。その結果、破骨細胞の骨吸収能が消失し、関節炎性骨破壊が抑制できることが示された。したがって、破骨細胞を標的とする治療戦略が生まれる可能性が出てきたと考えられた。

Smythの治療計画案のピラミッドの頂上に新しい治療の試みがある。DMARDの出現により、治療プランに変化が出てきたように、今後も、新しい治療法の開発により、治療プランや考え方が変わっていき、RAの治療効果が上がっていくことが期待される。

会員の異動

退会者

安藤 正（神奈川） 市川 将美（埼玉）
押田 翠（東京） 北村 信人（東京）
金 清次（千葉） 芝田 仁（東京）
陣内 一保（神奈川） 鈴木 昌彦（千葉）

須田 康文（東京） 高橋 淳一（千葉）
田中満智子（神奈川） 土屋 恒篤（山梨）
朝長 明敏（埼玉） 永田 正博（東京）
原 徹也（東京） 福岡 優子（茨城）
細川 譲（茨城）

これまでの勤務医会へのご協力ありがとうございました。

新入会員

安部 理寛 土浦協同病院
〒300-0053 茨城県土浦市真鍋新町11-7
TEL 029-823-3111

伊室 貴 神奈川県厚木病院
〒243-8588 神奈川県厚木市水引1-16-36
TEL 0462-21-1570

岩澤 大輔 土浦協同病院
〒300-0053 茨城県土浦市真鍋新町11-7
TEL 0298-23-3111

岩永 真人 谷津保健病院
〒275-0026 千葉県習志野市谷津4-6-16
TEL 0474-51-6000

岡崎 真人 荻窪病院
〒167-0035 東京都杉並区今川3-1-24
TEL 03-3399-1101

岡田 尚之 荻窪病院
〒167-0035 東京都杉並区今川3-1-24
TEL 03-3399-1101

小川 健 筑波記念病院
〒300-2622 茨城県つくば市要1187-299
TEL 0298-64-1212

小澤 正宏 谷津保健病院
〒275-0022 千葉県習志野市谷津4-6-16
TEL 047-451-6000

尾登 誠 筑波学園病院
〒305-0854 茨城県つくば市上横場2573-1
TEL 0298-36-1355

金尾 豊 谷津保健病院
〒275-0022 千葉県習志野市谷津4-6-16
TEL 047-451-6000

金子 正剛 筑波メディカルセンター病院
〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-3
TEL 0298-51-3511

狩野 真士 いちはら病院
〒300-3295 茨城県つくば市大曾根3681
TEL 0298-64-0303

川井 利康 虎の門病院
〒105-8470 東京都港区虎ノ門2-2-2
TEL 03-3588-1111

川口 行雄 茅ヶ崎市立病院
〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村5-15-1
TEL 0467-52-1111

栗田 和宏 筑波学園病院
〒305-0854 茨城県つくば市上横場2573-1
TEL 0298-36-1355

後藤 昭彦 谷津保健病院
〒275-0022 千葉県習志野市谷津4-6-16
TEL 047-451-6000

西須 孝 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉県緑区辺田町579-1
TEL 043-292-2111

坂根 正孝 茨城県立医療大学医科学センター
〒300-0331 茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2
TEL 0298-40-2278

白坂 律郎 土浦協同病院
〒300-0053 茨城県土浦市真鍋新町11-7
TEL 0298-23-3111

高橋 佳子 虎の門病院
〒105-8470 東京都港区虎ノ門2-2-2
TEL 03-3588-1111

玉井 浩 鴨川市立国保病院
〒296-0112 千葉県鴨川市宮山233
TEL 0470-97-1221

鶴田木綿子 筑波学園病院
〒305-0854 茨城県つくば市上横場2573-1
TEL 0298-36-1355

銅治 英雄 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉県緑区辺田町579-1
TEL 043-292-2111

豊田 宏 茅ヶ崎市立病院
〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村5-15-1
TEL 0467-52-1111

西川 卓治 虎の門病院
〒105-8470 東京都港区虎ノ門2-2-2
TEL 03-3588-1111

西間木徹也 虎の門病院
〒105-8470 東京都港区虎ノ門2-2-2
TEL 03-3588-1111

前原 秀二 土浦協同病院
〒300-0053 茨城県土浦市真鍋新町11-7
TEL 0298-23-3111

馬場 賢治 日立製作所土浦診療健診センター
〒300-0013 茨城県土浦市神立東2-27-8
TEL 0298-31-5830

三島 初 筑波記念病院
〒300-2622 茨城県つくば市要1187-299
TEL 0296-64-1212

林 真仁 太田総合病院
〒210-0024 神奈川県川崎市川崎区日進町1-50
TEL 044-244-0131

谷島 浩 荻窪病院
〒167-0035 東京都杉並区今川3-1-24
TEL 03-3399-1101

林 宗寛 鴨川市立国保病院
〒296-0112 千葉県鴨川市宮山233
TEL 0470-97-1221

山縣 正庸 千葉労災病院
〒290-0003 千葉県市原市辰巳台東2-16
TEL 0436-74-1111

日置 繁 きぬ医師会病院
〒303-0016 茨城県水海道市新井木町13-3
TEL 0297-23-1771

吉井 俊貴 土浦協同病院
〒300-0053 茨城県土浦市真鍋新町11-7
TEL 0298-23-3111

お知らせ

平成13年度関東地区整形外科勤務医会総会 第33回日整会認定教育研修会

関東地区整形外科勤務医会では、下記のごとく幹事会、及び教育研修会を開催いたします。
なお、研修会の出席予約は要りません。認定医以外の先生方もお問い合わせの上、ご参加下さい。会終了後、懇親会も予定しています。

記

日 時：平成13年12月8日（土）15:30～18:00
会 場：住友化学・参宮寮（地図参照）
〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-1-3
TEL 03-3320-3994

幹事会：15:30～16:00

教育研修会：16:00～18:00

(1) リウマチの再建術

(16:00～17:00) (N,R 1単位)

講師：川崎市立川崎病院整形外科

部長 堀内 行雄 先生

(2) 各種脊髄疾患の診断と治療

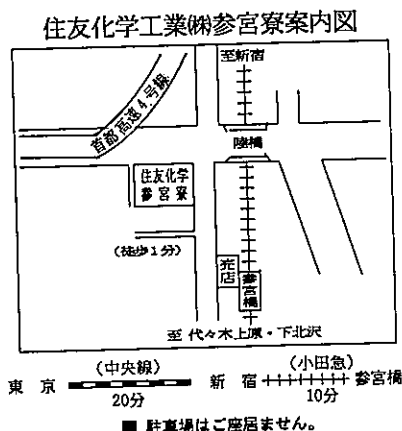
(17:00～18:00) (N,I 単位)

講師：慶応義塾大学医学部整形外科

教授 戸山 芳昭 先生

会 費：1題 2,000円

懇 親 会：ひきつづき18:15より同会場において行います。 共催 住友製薬株式会社



勤務医会入会のご案内

かつては大学医局のローテーションでたまたま勤務医であるとか、開業するまでの腰掛けで勤務医をしているとか、勤務医はidentity crisisに陥っていた時代があった。しかし、今では勤務医は医療を行う環境もよくなり、臨床研究も行えるし、余暇も取りやすいので積極的に勤務医の立場を選ぶ若い医師が増えてきたように思う。私の印象では若いドクターに勤務医会への加入を勧めて断られた記憶は少ない。組織力の強化がなかなかかからないのは会員の先生の入会勧誘への恥じらい躊躇が一番のバリアではないのかと思える。会員の先生、とくに医長、部長の先生、恥じらいをかなぐりすてて部下の先生を入会させて下さい。

ちなみに、私の勧誘の仕方は

- 1.宴会やコンパのときに勤務医会の存在や日整会の3本柱の一つになっていると簡単に説明する。そのとき共通の友人、知人である人も会員だと紹介する。
- 2.後日名簿の巻頭にある会則をコピーして渡し、俺が手続をしておくからと了解をとる。
- 3.会報の中にある入会申込書のコピーをとって必要事項を記入して事務局に送る。
- 4.事務局から本人に名簿と最新の会報、会費の振込用紙が届くので、最初の会費ぐらいは太っ腹に医長部長のポケットマネーで払うか医局費などがあればそれで面倒を見てもらうと導入がスムーズにいく。(会長 関)

編集後記

酷暑にめまいを覚えながら、ようやく編集を終えた。今年度より事務局を引き継ぎ、初回の会報発行であるが、不手際と怠慢が重なり発行が大巾に遅れてしまったことをお詫びしたい。

今回は、前号踏襲の紙面となったが、少しずつ、新企画にも取り組みたいと考えています。会員の皆様にも積極的に参加して頂ける紙面作りをめざしています。御協力お願い致します。(事務局:立花)

入会申込書

平成 年 月 日

(フリガナ)
御氏名 _____

生年月日 (大正・昭和) 年 月 日

現住所 〒 _____

TEL _____

勤務先名称 _____

勤務先住所 〒 _____

TEL _____

FAX _____

e-メール _____

役職名 _____

出身大学 _____

卒業年度 _____

出身教室 _____

入会申込み送り先

〒105-8470 東京都港区虎ノ門2-2-2
虎の門病院整形外科
関東地区整形外科勤務医会
事務局代表 立花 新太郎
TEL 03-3588-1111
FAX 03-3582-7068

10月8日

『骨と関節の日』

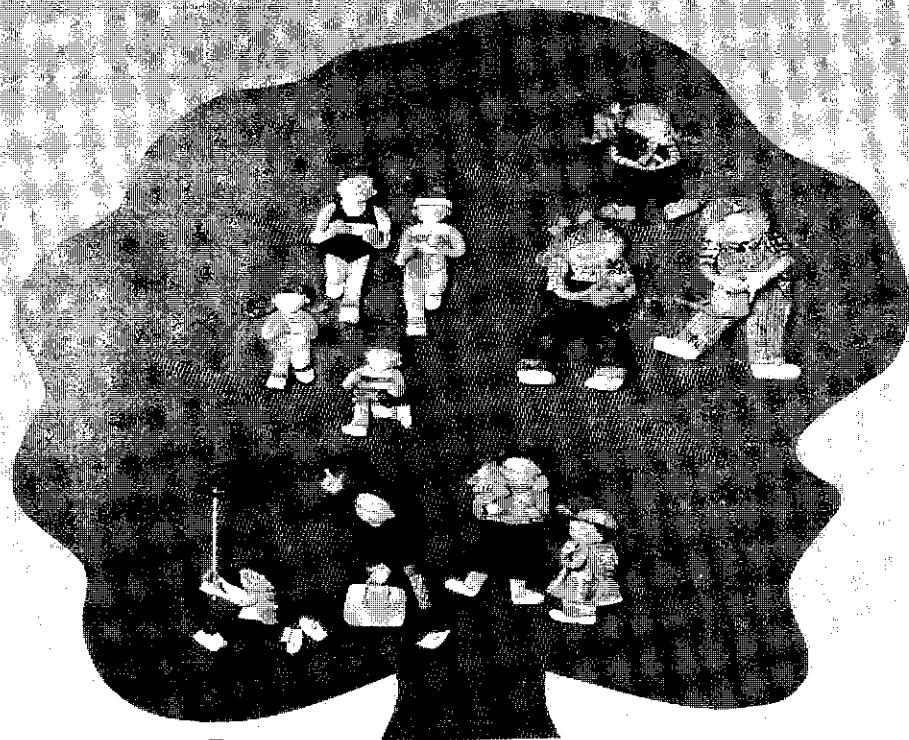
10月

『骨と関節の月間』

2000—2010年

『骨と関節の10年』

— 骨と関節の健康を考えましょう —



社団法人日本整形外科学会

住友製薬

Didronel®



骨代謝改善剤 エチドロン酸 ニナトリウム錠

錠 錠 錠 **ダイドロン錠200**

薬価基準収載

■ 効能・効果、用法・用量、使用上の注意等は添付文書をご覧ください。

製造発売元

資料請求先 住友製薬株式会社

〒541 大阪市中央区道修町2丁目2番8号

Trademark and product under license from Procter & Gamble Pharmaceuticals, Inc., U.S.A.

住友製薬

医保用具承認番号16200BZZ01201

骨補填材

ボーンセラム®P

BONECERAM-P

バイオフィUNCTIONALな機能設計に基づいて製造されたハイドロキシアパタイトです。

- 特徴**
1. 骨動態学的特性を有しています。
 2. 生体適合性が優れています。
 3. 生物学的安全性が認められています。
 4. 力学的強度が優れています。
 5. 臨床の有用性が認められています。

性能、使用目的、効能または効果

骨または関節手術における骨補填。

使用上の注意

1. 本品使用の際は、無菌的に取り扱うこと。
2. 本品は滅菌済包装してあるので、手術直前に開封し、すみやかに使用すること。
3. 開封したものは再使用しないこと。
4. 本品は、できるだけ清潔な場所での保管すること。
5. 高度の荷重がかかる関節面の直下などにおける本品の単独使用は避けること。

使用方法

採骨部位または骨欠損部位に、予め生理食塩液に浸漬した成形加工品または顆粒を、充填又は補填する。



連絡先

住友製薬株式会社
医療材料部

大阪市中央区伏見町2丁目1番1号 TEL(06)8229-5649
東京都千代田区神田駿河台3丁目11番地 TEL(03)5280-8643
仙台市青葉区大町2丁目2番10号 TEL(022)261-2651
名古屋市東区伴官町35番16号 TEL(052)935-9681
福岡市博多区博多駅前1丁目2番5号 TEL(092)431-6671

製造元

住友大阪セメント株式会社
東京都千代田区神田築土代町1番地

販売元

住友製薬株式会社
大阪市中央区道修町2丁目2番8号



S-PLATE

チタン棘突起プレート

1~2椎間の、short in situ fusionに用いる腰椎、胸椎、頸椎の棘突起プレートです。

椎間板ヘルニアや狭窄症でのラブ手術や広範開窓術後の固定術(PLFやPLIF)、また、前方固定術の後方からの補強など、種々の術式に使用可能です。

チタン製でMRIに対応でき、小型、簡易、強固を目指したものであります。

手術器械も使い易く、小数にまとめてあります。

●Sプレート

カタログ番号	形状
00-15-2	2穴 8mm×40mm
00-15-3	3穴 8mm×55mm
00-15-4	4穴 8mm×70mm

医療承認番号 07B第0846号

X線マーカー

ピンマーカー(2.5mmφロッド)とナットマーカー(6mm径で左右、形を変えてある)からなります。ピンマーカーにナットマーカーを通し、グリップハンドルで椎弓根に挿入します。

術中のX線撮影で正しい位置、方向を確認し、更に引き抜いてピンマーカーの長さからペディクルスクリューの長さを決定します。



イトー医科器械 整形外科用各種器機



株式会社 イトー医科器械

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里6-48-15
PHONE: (03)3806-2690 FAX: (03)3806-2650
E-mail: ito@ito-ika.co.jp